



Apple at Work

Macの導入計画書

Macで仕事をしよう

ビジネスに最適なツールがあれば、あなたの会社の成長をさらに後押しすることができます。Macは、大幅なコスト削減と生産性の向上を実現し、営業、マーケティングから財務、事業運営まで、あらゆる部門の社員に生き生きとした素晴らしい体験をもたらします。このガイドは、Macの導入に向けた初期段階でも、すでにMacを導入している組織がさらに規模を拡大する場合でも役立つよう、様々な企業のベストプラクティスやAppleの技術リソースがまとめられています。また、調達部門から人事部門に至るまで、主要な意思決定者を引き込み、導入に向けて関係者との会話を円滑に進められるよう、Macのメリットについて重点的に紹介しています。



ユーザーに最適

ビジネスのワークフローを次のレベルに引き上げ、最高の仕事をする意欲を高めるために、社員のみなさんに自分の好きなツールで仕事ができる環境を提供しましょう。

最近のある調査では、回答者の60パーセントが「会社でMacを選べるようにしてほしい」という項目に同意しています¹。規模を問わず、多くの企業がすでにMacを導入することで社員の満足度やパフォーマンスを向上させています。

macOSはユーザーフレンドリーで、複数のビジネスアプリを連係させてスムーズに共同作業を行ったり、迅速にデータを分析したり、効率よく同僚とコミュニケーションをとったりするためのパワフルな方法が備わっています。

また、すべてのMacには[アクセシビリティ](#)機能が組み込まれており、あらゆる人が力を発揮できるよう設計されています。

IT部門に最適

Apple製品は現在お使いの環境に簡単に取り入れることができます。多くのテクノロジーがiPhoneと共通しているため、すでにiPhoneを導入した経験があればさらに簡単に行えます。Macにはエンタープライズレベルのセキュリティと管理のためのフレームワークを備えているので、箱から出した瞬間からIT部門の強い味方になります。

ゼロタッチ導入により、IT部門はリモートでデバイスの構成と管理を行いユーザー設定をカスタマイズできるので、社員のみなさんは配布されたMacをすぐに使い始めることができます。

Macは使いやすいだけでなく、信頼性や耐久性にも優れているので、IT部門や社員の貴重な時間とリソースを節約できます。また、社内のユーザーが日々問題なく使い続けられるよう、チャネルパートナーと[AppleCare Professional Support](#)では幅広いサービスを提供しています。

ビジネスに最適

Forrester Consultingの調査では、Windowsパソコンと比較すると、Macを導入した場合、必要なソフトウェアの削減、ITサポートチケットの減少、残存価値の向上などにより、3年間のライフサイクルでデバイス1台あたり平均総額843ドルを節約できるという結果が出ました²。Apple Financial Servicesやチャネルパートナーでは、予算を最大限に活用できるように、カスタマイズ可能な支払いプランや、リースや更新に関する様々なオプションを用意しています。

Apple製品は地球のことを考えて設計されています。詳しくは、apple.com/jp/2030をご覧ください。Macは、エネルギー消費量の削減と再生素材の使用を通じて、企業の持続可能性の目標達成に貢献します。例えば、ブラジルのデジタルバンクであるInterでは、企業全体でMacを導入し、エネルギーコストを50パーセント削減しました³。

リーダーシップや社内リソースと連携し、変更をサポート

Macの導入を成功させるには、経営幹部や事業部門のマネージャーをはじめとした関係者たちの賛同を、最初の段階から得ておく必要があります。また、Macの導入を開始する前に、計画をサポートするための社内リソースを割り当てることも重要です。このセクションでは、サポートしてくれる経営幹部を見つけることから、プロジェクトチームの編成、統一された目標の定義、次のステップの概要までを説明します。

支持者を見つけ、チームを編成

リーダーシップから賛同を得るために、Macを導入する動機となる要因や、ビジネスにおけるメリットを説明する時間を設けましょう。

Macの導入に意欲的で、組織全体に推薦してくれる支持者を見つけます。彼らは、ビジネスにおける必要性やメリットなどの重要な知見を活かして、導入への障壁を取り除き、意思決定に影響を与え、取り組みを促進してくれるはずで

Macプロジェクトチームのメンバーを、組織内の様々なグループや役職から募ります。そうすることで、多様な視点を取り入れ、リソースを有効活用しながら支持を集めることができます。以下のようなメンバーを含む包括的なチームを編成しましょう。

- ・ ITエキスパート(デバイスのセキュリティ、管理、導入に関する経験)
- ・ 事業部門のマネージャー(部門の目標を伝え、ユーザーの参加をサポート)

- ・ コーポレートコミュニケーションおよび人事担当者(Macの提供を広く知らせ、取り組みを促進)
- ・ ビジネスユーザー(自身の職務に関わるワークフロー、アプリ、システムの専門的な情報を提供。Macに関する知識が豊富、もしくはファンである場合は、Mac導入による効果を明らかにすることにも貢献)
- ・ Appleのアカウントチーム、信頼できるチャネルパートナー、Appleソリューションパートナー、Apple Professional Servicesなどの外部リソース(インフラの評価や導入ニーズに関するサポート)

社員を巻き込み、統一した目標を設定

社員とオープンにコミュニケーションがとれるようにしておくことで、有益なフィードバックを収集したり、全体を包括する目標を適確に伝えたり、プロジェクトで掲げたメリットが得られるかを検証したりできます。

社員にアンケートをとり、テクノロジーに希望することやニーズ、現在の課題を把握しましょう。アンケートの結果をもとに、社員と関係者を念頭に置いてMac導入の目標を設定します。

テスト導入やEmployee Choiceプログラムの開始に備えて、進捗状況も共有方法や継続的なフィードバックの収集方法、Macをどのように社内でもプロモーションするかについて、文書にまとめておきましょう。

「Fordでは、自動車業界内でデジタルトランスフォーメーションに関する取り組みを推進しています。その核となるのが、世界中で働く約17万人の社員に毎日使うためのツールや機器をこれまで以上に提供することです。私たちはその選択肢としてMacを加えました。社員が自分のワークフローやアクセシビリティのニーズに合わせて最適なコンピュータを選ぶことに大きな期待を寄せています」

Sucheta Walimbe氏(Fordインフラ部門グローバル責任者)⁴

プロジェクトの計画を作成

Macのスムーズな導入を成功させるには、主要なマイルストーンや必要なリソース、タスクの割り当て、目標の期限を盛り込んだプロジェクトの計画を作成することが重要です。

まずは現在の進捗状況を把握し、Macの導入に向けてどの段階にいるのか、また、目標達成に必要なアクションは何かを理解しましょう。

そして、いくつかのフェーズに分けてロードマップを作成します。これには、ネットワーク上でMacの使用を許可する、管理ツールを決定する、調達方法を選択する、テスト導入を実施する、デバイス選択プログラムにMacを追加する、もしくは標準的なデフォルトオプションにするなどが含まれます。

導入開始日を決め、対象範囲と実行のための戦略を明確にし、成果指標を設定する必要があります。

次に、予算を設定し、支払い方法を検討します。予算や社員のワークフロー、部門のニーズに合わせて、最適なMacモデルを選びましょう。

そして、進捗状況を定期的に報告し、コアチームやサポートしてくれる経営幹部が経過を把握できるようにしましょう。



「Ritualsでは、毎日の習慣を充実した時間に変えるための製品をお客様に提供しています。その思いは社内に対しても変わらず、社員にはクラス最高のテクノロジーを配布しています。MacBookが持つ高い生産性、信頼性、柔軟性が、社員のユーザー体験を向上させています」

Lucas van Eeghen氏 (Rituals取締役)⁵

以下のチェックリストを必要に応じてカスタマイズして、Macの導入計画に役立てましょう。

協働

- ☐ 支持者を見つけ、目標を設定し、ビジネスにおけるメリットを評価する
- ☐ 統合プロジェクトチームを立ち上げ、役割と責任を定義する
- ☐ 現在の進捗状況を評価し、Macの導入フェーズを確認する
- ☐ iOSの導入や管理の経験を活かす

コミュニケーション

- ☐ 社員を巻き込み、ハードウェアとソフトウェアに希望することやニーズを把握する
- ☐ コミュニケーションプランを作成して、関連するマイルストーンの共有、Macの社内プロモーション、ユーザーフィードバックの収集を行う
- ☐ 各フェーズで最新の進捗状況をサポートしてくれる経営幹部に報告する

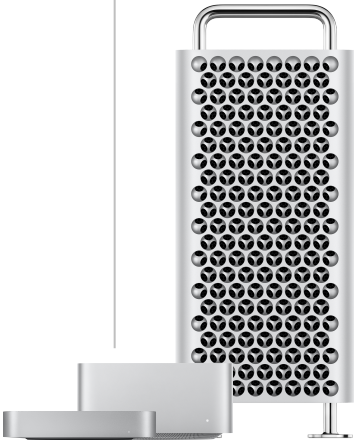
実践

- ☐ 導入開始日、対象範囲、実行戦略、成果指標を決める
- ☐ 予算を設定し、支払い方法を検討する
- ☐ 社員のワークフローや部門のニーズに合わせて最適なMacモデルを選定する

どんな仕事にもぴったりのMacがあります。

M2 Maxまたは M2 Ultra搭載Mac Studio

パワフルな性能と豊富なコネクション。
プロのためのMacデスクトップ。



M2またはM2 Pro搭載Mac mini

パフォーマンスは限りなく大きく。
最も手に入れやすいMacデスクトップ。
Mac miniは、優れたパフォーマンス、
汎用性、柔軟な接続性を驚きの価格で
入手できるので、プロのクリエイター
からデベロッパのワークスペース、
さらにデータセンターに至るまで、
多くの企業で愛用されています。

M2 Ultra搭載Mac Pro

常識を超えるパフォーマンスを
標準装備。Mac Proは、負荷の高い
ワークフローに対応する究極の
ワークステーションです。社員は
高度な計算分析、3Dレンダリング、
モーショングラフィックスなどを
効率的にこなせます。

M3搭載24インチiMac

創造力と生産性を高める美しい
オールインワンデスクトップ。iMacは、
店頭、医療施設、広告代理店など
様々なビジネス空間にぴったりです。



M3搭載15インチMacBook Air

広々とした画面と最大18時間持続する
バッテリーを備えているので、ビジネス
ユーザーは、様々なプロジェクトを管理したり、
スプレッドシートを作成したり、ビデオ会議に
参加したりと、一日中使用ことができます⁶。
プロジェクトリーダー、ビジネスアナリスト、
マーケティング担当者などに適した驚異的な
ノートブックです。



M3、M3 Pro、またはM3 Max搭載 14インチおよび16インチMacBook Pro

負荷の高いワークフローを自在に。
最も進化したMacノートブック。負荷の高い
ワークフローに幅広く対応するMacBook Pro
は、デベロッパ、データサイエンティスト、
クリエイターに最適です。8Kビデオの編集、
AIやMLモデルの実行、大規模なデータセット
の分析といった専門的なタスクも快適に
こなせます。



M2またはM3搭載13インチ MacBook Air

何でもできて、最も手に入れやすい
Macノートブック。驚くほど薄くて速い
ので、どこでも働き、遊び、作ることが
できます。営業マネージャー、役員、
コンサルタントなど、出張の多い社員に
最適なデバイスです。

主要なアプリとワークフローを評価

Apple製品は、既存の企業インフラや環境に適合できるよう設計されています。Macは非常に多くのアプリと互換性があるだけでなく、あらかじめ組み込まれた生産性向上や共同作業のための機能によって、あなたのビジネスのワークフローをサポートします。この段階では、社員のみなさんが日常的に利用しているアプリやシステムを調べ、業務に不可欠な機能がMacに対応していることを確認しましょう。その後、プロセスの改善やレガシーシステムをアップデートするための新たな方法を検討します。Appleのアカウントチームや信頼できるチャンネルパートナーなら、Mac Evaluation Utilityアプリを使い、現在お使いの環境にMacを取り入れる方法の概要を提供することもできます。

既存アプリとシステムの評価

Macでは、社員のみなさんが日々の業務で使うソフトウェアの多く、例えばMicrosoft 365、SAP、Zoom、Google Workspace、Dropbox、DocuSign、Salesforce、Box、OmniPlan、Adobe、Autodesk、Slackなどを、シームレスに実行できます。

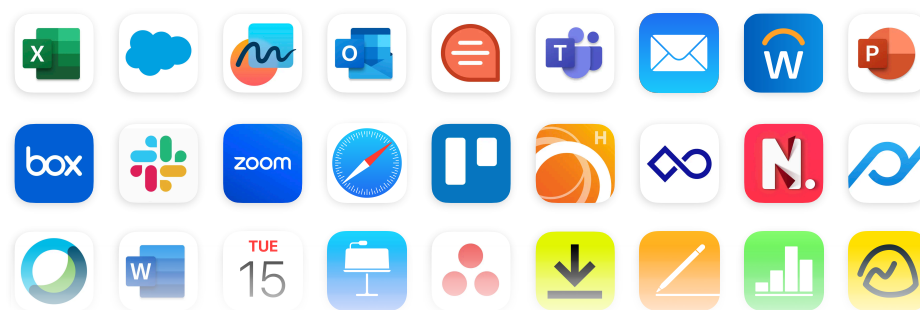
Macは標準的なエンタープライズネットワークに初めから対応しているので、組織のEメール、メッセージ、ファイル共有のためのアプリにも簡単かつ安全にサインインできます。現在では、多くのビジネスアプリがクラウドベースに移行しつつあります。世界最速のブラウザである

Safariは、強力なカスタマイズオプションとパワフルなプライバシー保護機能を備え、Macのバッテリー駆動時間も最適化するので、社員は最大限に力を発揮して仕事ができるようになります。

Macの導入は、アプリやシステムを精査するための良い機会になります。使われていないアプリやシステムのサポートを終了し、社員の生産性向上に必要なアプリや機能に重点を置きましょう。多種多様なシステムやアプリを社員に提供していても、日常の業務で使われているものや、必要とされているものはそのうちのごく一部であることが判明することもあります。

「Wealthsimpleでは、すべての社員にMacを提供しています。Macは直感的に使えて、信頼性が高く、セキュリティに配慮しているからです。iPhoneとシームレスに連携し、Microsoft 365、Google Workspace、Slackなどの毎日使うアプリと互換性がある点もMacが社員に好まれている理由です」

Anne Steptoe氏 (Wealthsimpleインフラ担当バイスプレジデント)⁷



いくつかのプロセスに分けて必要なアプリを検討しましょう。まずは、コミュニケーションや書類作成、ファイル管理のために共通で使われているアプリなど、組織全体に大きく影響するものから始めます。次に範囲を絞り、特定の役職やパイロットユーザーの業務に不可欠なアプリや、部門固有のアプリを評価します。

ウェブやMac App Storeで、該当するMac向けビジネスアプリを検索し、ダウンロードします。[ビジネスアプリスタートアップガイド](#)では、Macでも動作するiPhoneおよびiPadアプリを紹介しています。

Macでの体験を最高のものにするために、主要なアプリのパフォーマンスと機能の有効性をさらに詳しく評価し、社員が各自の業務に適したツールを利用できるようにしましょう。その後、パイロットユーザーや部門グループを特定して、評価を継続していくのもよいでしょう。

macOSでワークフローを改善

現在すべてのMacに搭載されているAppleシリコンは、超高速のユニファイドメモリや比類のない電力効率とパフォーマンスの基盤となる、革新的なシステムオンチップ(SoC)です。このAppleシリコンのイノベーションにより、Macは瞬時のスリープ解除、高速な統合型グラフィックス、驚異的なバッテリー駆動時間を実現しています。そしてmacOSでは、スムーズなマルチタスキングやアプリのすばやい起動、ビジネスワークフローのシームレスな実行を体験できます。

すべてのMacには、優れたデザインとパワフルなテクノロジーを備えたmacOSが搭載されています。開いているすべてのウインドウとデスクトップスペースの表示や切り替えができるMission Controlや、Mac上のアプリ、書類、Eメール、その他の項目を瞬時に見つけることができるSpotlightなどの機能を、キーボードショートカットを使ってすばやく起動し、タスクを実行できます。集中モードは、すべての通知を一時的にオフにしたり、業務に必要な通知のみを許可したりすることができます。気が散る原因を最小限に抑えられるので、社員のみなさんは仕事により集中できるようになります。内蔵のアクセシビリティ機能を使えば、キーボードやSiriで簡単にMacを操作することもできます。Appleでは、生産性向上のための機能の強化や進化に継続的に取り組んでおり、macOSのリリースごとに最高の機能を提供しています。新しいmacOSリリースのベータ版で、強化された最新の機能を公開前に試すことができます。

「Microsoft 365、Microsoft Azure、Microsoft Dynamicsを使って、毎日の業務のワークフローを進めています。これらのソフトウェアは、Macでもまったく問題なく動作しています」

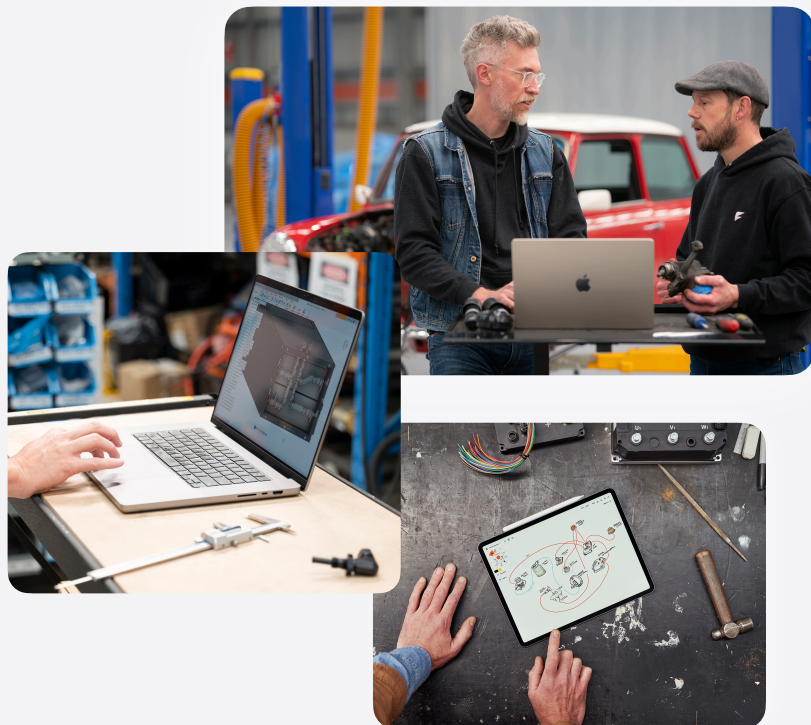
Joost van der Zwaan氏(Rituals情報通信テクノロジー責任者)⁵



Ritualsは、美容とウェルビーイング関連の製品を扱う小売業者です。世界中の伝統や文化からインスピレーションを受けた家庭用品やボディケア製品を手頃な価格で提供しています。1店舗から始まった同社のビジネスは急成長を遂げ、現在ではヨーロッパ、中東、アジアに1,000店舗以上の直営店と3,900店舗以上のインショップを展開するまでになりました。会社の事業規模が3倍になっても、ITサービスデスクに追加したスタッフは1名で済みました。職場環境の刷新を任されたIT部門は、直営店を含む事業全体でApple製品を標準にすることを決定し、本社と世界各地の店舗に3,000台のMac、1万台のiPhone、2,000台のiPadを導入しました。今では、マーケティング、製品デザイン、経理、人事など、社内すべての部門の社員が、業務に必要なすべてのアプリをMac上でシームレスに利用しています。

「Jauntでは、職人の手仕事と21世紀の製造業を融合しています。そのプロセスを最初から最後まで動かし、支えているのがAppleのテクノロジーです」

Dave Budge氏 (Jaunt Motors最高経営責任者)⁸



Jaunt Motorsは、オーストラリアの大手EVコンバージョン工場です。四輪駆動車やクラシックカーを電気自動車にアップサイクルしています。ビジネス全体でApple OneプラットフォームとiCloudのサービスを利用し、一つの仕事から別の仕事へ、一つのデバイスから別のデバイスへとスムーズに移行できるようにしています。コンセプトの段階で、チームはiPhone、iPad Pro、Apple Pencilを使って元の車両をスキャンし、ムードボードを作成して3Dモデルをデザインし、それをMacにシームレスに読み込むことができます。エンジニアはNumbersとOmniGraffleを使って電気配線図を作成します。さらに、MacBook Proでカスタム部品を設計し、自分たちで作るか3Dプリンタに設計を送って製造します。[Jauntについて詳しくはこちらをご覧ください。](#)

Mac、iPhone、iPadを一緒に使えば、さらに効果は高まります。AirDropを使ってワイヤレスでファイルを共有する、Handoffを使ってデバイスをまたいでドキュメントを編集する、ディスプレイを拡張するなど、様々なことが可能になります。Macの関係機能はApple IDや iCloudで利用でき、社員にどの機能を許可するかを指定できます。

macOSには、社員の生産性を向上させるためのパワーと柔軟性が詰まっています。パイロットユーザーに自身のワークフローを評価してもらい、仕事の障壁や非効率的な手作業があればmacOSによって解消できるようサポートしましょう。システム設定でユーザーがMacをカスタマイズできるようにしておけば、社員は自分に合ったやり方で仕事を行うことができます。

レガシーシステムの見直し

社内には、レガシーシステムや古いアプリを使い続けている部門やグループが存在していることもあります。これらのシステムやアプリの使用状況を評価し、将来的にアップデートさせたり、置き換える方法を検討しましょう。それまでは、ユーザーはCitrix、Parallels、VMware、Windows 365クラウドPCなどの他社製ソリューションを使って、引き続きMacからレガシーシステムにアクセスできます。

Appleのパートナー企業はモバイル戦略のコンサルティング、アプリ開発、バックエンドシステムの統合、企業のネットワーク構築などのサービスを提供しています。中小企業のお客様は、[Apple Consultants Network](#)で独立したテクノロジーサービスプロバイダを見つけることができます。これらを利用することで、Appleのハードウェア、ソフトウェア、サービスを最大限に活用できます。

「変化を起こすきっかけとなったのは、あるプロジェクトにおいて、出資元の政府機関からより高度な新しいニーズがあり、Macが必要になったことです。そのため私たちは、MacにもWindowsにも適応する新たな標準セキュリティ設定を構築しました。やがてウェブベースのプログラムやクラウドベースのアプリが増えてきたことで、デバイスを問わずシステムが使いやすくなりました。私たちは会社のインフラにMacをシームレスに統合していき、安全性の高い異機種混在環境を実現しました。今では社員全員が希望するOSを利用できるようになっています」

MITRE (米国政府が出資する非営利システムインテグレーター)⁹

導入と管理の方法を刷新

内蔵のセキュリティ機能、管理のためのフレームワーク、導入プログラムによって、Appleのサービスへのアクセス権の社員への提供や、デバイス登録の設定、ソフトウェアの配布を合理化することができます。Apple Business Managerとモバイルデバイス管理(MDM)ソリューションを活用すれば、Macの管理と導入が簡単になり、IT部門はデバイスの管理に費やす時間を短縮して、より多くの時間を戦略的な取り組みに充てることができます。もし現在、あなたの会社でiPhoneの管理を行っているなら、IT部門はMacの管理方法もすでに把握しているも同様です。MacとiPhoneの基本的なフレームワークは同じなので、同じ管理ソリューションを使用できる場合もあります。

自社環境でMacを評価

Macは業界標準をサポートするように設計されているので、エンタープライズ環境に簡単に統合できます。Macは、安全性の高いワイヤレスネットワーク接続機能を内蔵し、WPA3 Enterpriseと802.1Xに対応しています。また、追加設定なしでVPNに対応し、企業データを暗号化して保護します。macOSは、IKEv2、Cisco IPsec、L2TP over IPsecなど、すでに社内で使用している業界標準ネットワークと連携します。さらに、一般的なあらゆるEメールサービスに対応し、メールのプッシュ、カレンダー、連絡先、タスクなどを暗号化されたSSL接続で行います。詳しくはMac導入の概要と[Apple at WorkのITページ](#)をご覧ください。

Macの導入と管理

Macは箱から出してすぐに業務に使うことができ、導入も驚くほど簡単です。ゼロタッチ導入によりイメージングプロセスは不要となり、IT部門はMacをユーザーに直接割り当て、Jamf、Intune、VMwareなどのMDMソリューションに自動的に登録できます。プロビジョニングのためにデバイスに触れる必要はありません。これらはすべて、iPhone、

iPad、Mac、Apple TV導入のためのウェブベースポータルであるApple Business ManagerとMDMソリューションで行うことができます。

MacがMDMに登録されると、IT部門はmacOSの安全性の高い管理フレームワークにより、設定の構成とアップデート、アプリの導入、コンプライアンスのモニタリング、デバイスへのクエリ送信、企業データのリモート消去ができるようになります。社員に対して透明性の高い管理を提供しながら、生産性を妨げることなく、IT部門は必要なモニタリングを継続できます。すでにiPhoneやiPad向けのMDMソリューションを導入している企業なら、同じソリューションを使ってMacの導入、設定、管理もできる可能性があります。

以下のリソースもご覧ください：

[Apple Business Managerユーザガイド](#)、[Appleプラットフォーム導入ガイド](#)、[導入と管理のチュートリアル](#) (英語)。

「Macのゼロタッチ導入により、自宅でも、オフィスでも、カフェでも、セキュアなオンボーディングが可能になります。数分のうちに完了し、非常に簡単に行了ました」

Lisa Brown氏 (SAPエンタープライズモビリティ責任者)¹⁰



エンタープライズアプリケーションソフトウェアにおいて市場をリードし革新を続けるSAPは、働く一人ひとりの意欲を高めることが重要だと考えています。社員が仕事にMacを選ぶようにしたのもそのためです。SAPがMac as Choiceプログラムを開始して以来、3万人を超える社員がMacを選んでます。SAPは、Apple Business ManagerとJamfのMDMソリューションを活用したゼロタッチ導入によって、社員の自宅やオフィスに直接デバイスを送付できるようにしています。デバイスはサプライヤーから直接届き、IT部門があらかじめ構成する必要はありません。社員は自分でMacを箱から出し、15分もかからずに使い始めることができます。[SAPにおけるMacの活用事例](#)について、詳しくはこちらをご覧ください。

エンドポイントを保護

Appleは、セキュリティと管理は密接に結びついていると考えています。Macは、その使いやすさと同じくらい安全です。最先端の機能により、主要な機能が使えなくなったり、ツールをいくつも追加したりすることなく、データとデバイスを簡単に保護できます。内蔵のフレームワークにより、IT部門はシステム全体でセキュリティを管理できるので、ユーザーのサポートや、生産性向上に必要なものの提供にさらに多くの時間を割けるようになります。組織は開梱時のオペレーティングシステムをそのまま使用できるため、Macデバイスのイメージングが不要になり、署名済みバージョンのmacOSのみを実行できます。さらに、Appleは強固なマルウェア対策とウイルス対策の内蔵ソリューションを組織に提供します。Appleのハードウェア、ソフトウェア、サービスは一体となって、先進的なセキュリティをシームレスに実現します。

- **Appleシリコン。**macOSはAppleシリコンとシームレスに連携し、高度なセキュリティとプライバシー機能でシステムとデータを安全に保護します。AppleシリコンのSecure Enclaveは、暗号鍵の生成と保護を行い、Touch IDのデータを守ります。
- **署名済みシステムボリューム。**セキュアブートは、Appleから提供された正規のオペレーティングシステムソフトウェアのみを起動時に読み込めるように設計されており、署名済みシステムボリュームは、実行時の改ざんを防止します。つまり、Macは工場出荷時から安全で、IT部門はデバイスを社員に渡す前にコンピュータのイメージングを行う必要がありません。

- **暗号化。**Macが悪意のある人の手に渡ってしまっても、暗号鍵がなければ機密性の高いデータやファイルにアクセスすることはできません。IT部門がFileVaultを管理して、暗号化を確実に有効化することもできます。
- **承認済みソフトウェア。**Gatekeeperは、悪質なソフトウェアからMacを保護します。Mac App Storeで公開されているアプリやデベロッパ、およびAppleの公証を受けたアプリのみを許可しておけば、社員は安全なアプリだけをダウンロードして使うことができます。
- **ウイルス対策。**macOSには、XProtectというウイルス対策テクノロジーが組み込まれています。常時有効になっており、ウイルスやマルウェアを自動的に検出して削除します。新たな脅威の先を行くために、XProtectは常に最新の情報にもとづきアップデートされています。
- **パスワードとパスキー。**Apple製デバイスでは、パスワードやパスキーの保存と同期が行われているので、アプリやウェブサイトにも簡単かつ安全にサインインできます。パスキーはエンドツーエンドで暗号化され、フィッシングやデータ漏えいから守られるので、一般的なすべての2ファクタ認証よりも強力です。
- **ネットワークのセキュリティ。**最新の安全なネットワーク規格が組み込まれているので、社員はどこからでも、最小限の設定で会社のネットワークに安全にアクセスできます。IT部門は、デバイスを従来のファイアウォール内に置いておく必要がありません。
- **安全なソフトウェアアップデート。**自動アップデートがバックグラウンドで実行されるので、デバイスは長期にわたって安全に保たれます。

また、緊急セキュリティ対応により、アップデートの合間に発生した脆弱性に対するパッチを適用します。ユーザーにいつアップデートを提供するかを選択することや、社内のすべてのデバイスにアップデートをプッシュすることもできます。

詳しくは、[Appleプラットフォームのセキュリティガイド](#)、[Apple at Workのセキュリティページ](#)、[IDC：ビジネスに必要不可欠な安全なエンドポイント](#)をご覧ください。

「セキュリティはInterにとってお客様への大きな提供価値の1つです。私たちがMacを選んだ理由は、堅牢なセキュリティ機能と合理的なエコシステムを備えているからです。その結果、ITに関する作業負荷を軽減することができました」

Guilherme Ximenes氏 (Inter最高技術責任者)³

0件 Macへの切り替え以降に発生したマルウェアインシデント

80% のサポートリクエストが減少

4,000台以上のMacを導入

2,900万人以上の顧客数

Interはブラジル最大の銀行の1つで、グローバルに事業を拡大しています。Interはセキュリティ、効率、持続可能性、そして社員の体験を重視してMacに移行しました。Appleなら、より優れたソリューションをIT部門に提供し、柔軟性を高めてイノベーションを促進できると考えたからです。Macを導入するまで、IT部門は複数のレガシープラットフォームをサポートしていましたが、それぞれの動作が異なるので、連携させるには入念な配慮が必要でした。現在、Interは安全性の高いプラットフォームを利用し、IT部門で管理が必要な他社製のアドオンは減っています。Interでは、事業が急成長を遂げたにもかかわらず、IT部門の規模は以前と変わっていません。IT部門では、Apple Business Managerと他社製MDMソリューションであるJamfを使って、新入社員向けのオンボーディングをゼロタッチ導入で行っています。さらに、MacとJamf Connectはシームレスに連携するので、IDプロバイダであるMicrosoft Azureを統合して、ID中心のセキュリティモデルを合理化しています。[InterにおけるMacの活用事例](#)について、詳しくはこちらをご覧ください。

アプリ配布を合理化

IT部門は、Mac向けのソフトウェアを柔軟に導入することができます。Mac App Storeのアプリのライセンスは、Apple Business Managerで一括取得できます。MDMを通じてデバイスに直接配布されるので、Apple IDは必要ありません。Mac App Storeにないソフトウェアの場合、IT部門はMDMを使ってパッケージファイル(.pkg)を導入できます。MDMを使って導入されたアプリやソフトウェアは「管理対象」とみなされ、削除やアプリの構成設定の適用など、追加の制御機能を利用できます。ほとんどのMDMソリューションにはセルフサービスのアプリカタログが用意されているので、IT部門が承認済みアプリのセットを作成しておけば、社員は各自のMacに自分でインストールすることができます。

企業用IDを統合

Macには、セキュア認証のためのシングルサインオン(SSO)フレームワークが組み込まれています。ユーザーはMacに1回サインインするだけで、Touch IDを使って会社のすべてのアプリとウェブサイトにアクセスできます。また、SSOは一般的なID管理ソリューションと統合できるので、ローカルユーザーアカウントのパスワードを組織のIDプロバイダと常時同期させて認証を簡素化できます。

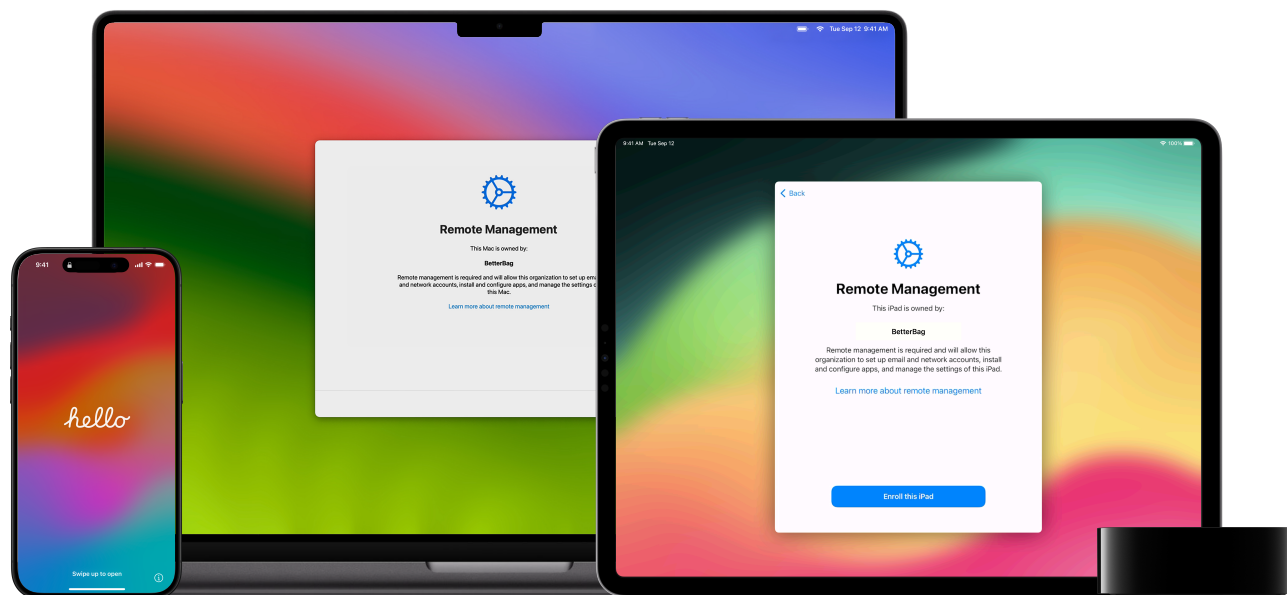
高度な検出を設定

組織によっては、セキュリティやコンプライアンスのために高度な脅威検出が必要になる場合があります。Appleのエンドポイントセキュリティフレームワークによって、セキュリティデベロッパはセキュリティの脅威を監視、分析、対処するためのソリューションを構築できます。これらのソリューションにはSystem Extension(英語)が使われるので、IT部門はユーザーの全体的なパフォーマンスに影響を与えることなく、脅威に適切に対処できます。System Extensionはユーザー空間で動作するので、macOSのセキュリティや安定性が損なわれることはありません。

アップデートと更新

AppleSeed for ITを使うと、IT部門は独自の環境でリリース前のソフトウェアを評価できます。新しいバージョンのmacOSをインストールする際は、IT部門は監視モードのMacのアップデートを管理できます。特定のバージョンを社員に配布したり、常に最新のソフトウェアを使用するように強制することもできます。

Macを更新する必要がある場合は、すべてのコンテンツと設定をリモートですばやく消去できます。また、新しいユーザーへのMacの再割り当ては数分で完了します。



ITサポートとユーザートレーニングの立ち上げ

Macの導入を成功させるために、社員のみなさんがMacを選択する時から、デバイスの設定、サポートのニーズに至るまで、すべてのユーザー体験を重視しましょう。また、社員が必要な時にサポートを受けられる方法を複数用意しておくことも大切です。現場のヘルプデスク担当者とデバイス管理担当者の両方にトレーニングを実施して、IT部門の準備を整えておきましょう。

ITサポートを合理化

Apple製デバイスは、使いやすく、長く使えるよう設計されています。通常、Macを使っていれば、ヘルプデスクにサポートを求める機会はありません。しかしそのような場合でも、ヘルプデスクはこれまでの対処方法とは異なり、技術的なサポートが必要であればエキスパートにつないだり、社員自身がMacのスキルを身につけて問題を解決するよう促したりできるようになります。

Apple Professional Training (英語) では、導入と管理のチュートリアル (英語)、Apple デバイスサポートのチュートリアル (英語) など、IT管理者やヘルプデスクのサポートスタッフ向けに包括的なトレーニングと認定試験を用意しています。また、AppleCare Professional Support や、チャンネルパートナーが提供する、社員、ヘルプデスク、IT部門向けのエキスパートによる総合的なサポートを利用することもできます。

Apple製デバイスに関するトレーニングを受けたサポートデスクの専任のスタッフから、ハードウェアやソフトウェアの質問に合わせたガイダンスを受けることもできます。対面、オンライン、電話など、社員一人ひとりにとって都合の良いサポート手段を用意して、あなたの会社にぴったりのサポート方法を整えます。

「私の仕事は旺旺の社員とIT部門の両方に最適な体験を提供することです。Macはユーザーフレンドリーであり、ITフレンドリーでもあります。Macのおかげで、セキュリティインシデントとITヘルプデスクチケットが減りました。また、Apple Business Managerを使うと、わずか10分でデバイスを登録できます」

Ding Hongxing 氏 (旺旺ITディレクター)¹¹

94%

社員満足度

67%

ハードウェアの修理が減少

75%

導入効率が向上

95%

セキュリティインシデントが減少

旺旺の菓子、乳製品、飲料は中国で高い人気を得ているだけでなく、今や世界63か国以上で販売されています。この大手菓子メーカーは、2015年にWindows パソコンからMacへの大規模な移行を実施し、1万台以上のMacコンピュータを導入しました。Macへの移行によってIT運用が最適化され、セキュリティが向上し、複数部門にわたってワークフローが効率化しました。[旺旺におけるMacの活用事例について、詳しくはこちらをご覧ください。](#)

Eメールでのリクエストやオンラインチケットをヘルプデスクチームへ転送できるようにし、電話サポートの強化や、予約なしで利用できるサポートカウンターの設置を検討してみましょう。新しいデバイスの導入やアップグレードのタイミングでオフィスに特設スペースを用意するなど、特定の状況やイベント向けのサービスも考えます。

最高のサポート体験を提供できるよう、IT部門の準備を整え、トレーニングを行い、サポートインフラを完成させます。現在の技術者をMacのサポートに移行したり、技術者をクロストレーニングしてMacとWindowsパソコンの両方に対応できるようにしたり、または、Mac専門の新しいチームのために人員を採用するなどしてチームを編成します。もしくは必要に応じてアウトソーシングすることも検討しましょう。さらに、チームがハードウェアとソフトウェアの問題に対処できるようにしておき、デバイスとアクセサリを社員に配布する体制を整えます。予備的な技術トレーニングについては、macOSのサポートの概要(英語) オンラインワークショップをご確認ください。

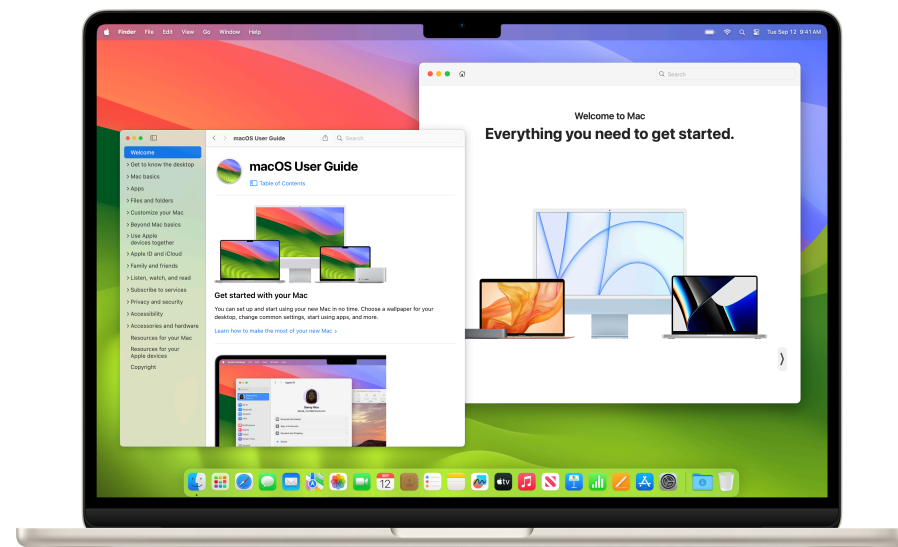
社員向けリソースを提供

Forrester Consultingが実施した調査によると、Macユーザーは自身でサポート方法を参照することを選んでおり、より自立している傾向にあるとIT部門の意思決定者は回答しています²。質問に答えたり自分で問題を解決したりするチャンネルを社員に提供することで、IT部門のサポート負荷を分散することができます。社員が同僚からの助けも借りられるよう、Slackチャンネルなどにフォーラムを設置しましょう。Macコミュニティのウェブページを

作成し、よくある質問や使い方ガイド、そのほか、自身で解決するのに役立つ資料を公開します。また、イントラネットにMacに関するランディングページを設けることで、社員が適切なサポートリソースにすばやくアクセスできるようにします。

Macを最大限に活用できるよう、ユーザーをトレーニングすることに重点を置きましょう。社内ヘルプデスクリソースやAppleが提供するサポート資料(macOSユーザガイド、WindowsとMacの用語の違いに関するMacでは何と呼びますか?、Windowsから乗り換えるときに役立つMacの使い方のヒントなど)を社員に紹介します。Macに関するランディングページやセルフサービスポータルがある場合は、社員が検索や参照をしやすいように、重要な情報やトレーニングリソース、イベントへのリンクをすべてまとめておきます。社員がスムーズに使い始められるように、社員向けMacスターターガイドのヒントを参考にして、macOSの主な機能やアプリに関するトレーニングワークショップを実施しましょう。Appleでは、Macスキル(英語)などのオンライントレーニングイベントを年間を通じて開催しています。お住まいの地域のプログラムについて詳しくは、Appleのアカウントチームにお問い合わせください。

SlackやMicrosoft Teamsなどの社内コミュニケーションサイトにMacチャンネルを作成しましょう。Macユーザーはこのチャンネルにアクセスして、同僚とやり取りできる掲示板や生産性向上のためのヒント、トラブルシューティングのサポートを利用できます。また、このチャンネルでMacのエバンジェリストを募り、ユーザーからフィードバックを収集するのに役立てることもできます。



「macOSは直感的でユーザーフレンドリーなので、社員はMacで業務を始めた瞬間から生産性を高めることができます。仕事でMacを使ったことがない社員でも、IT部門のサポートはほとんど必要ありません。Macはとても使いやすいので、IT運用チームはサポートリクエストよりも、イノベーションを推進するプロジェクトにより多くの時間を費やすことができます」

Anne Steptoe氏(Wealthsimpleインフラ担当バイスプレジデント)⁷

Macプログラムの開始と拡大

これで準備は完了です。さあ、組織にMacを導入しましょう。Macの導入は、幹部と社員の対話集会や、全員が参加する部門会議などの社内イベントに合わせて実施するとよいでしょう。導入開始日を確定し、対象ユーザーに継続的に情報を提供します。Mac導入の拡大に合わせて、ユーザーからのフィードバックを収集し、主要な評価指標を測定、追跡して、社員に必要な情報を伝えます。Macをより多くのグループに、さらには企業全体に提供できるようになれば、プログラムの成功はもう目の前です。

プロジェクトプランを実行

プロジェクトマネージャーと連携して、Macの導入に必要な手順をほかの部門のリソースと調整します。必要に応じてサポートしてくれる経営幹部や関係者のチームの協力を仰ぎましょう。このプロセスには、経営層から最終承認を得る、人事やコミュニケーションチームと協力して社内コミュニケーションを強化する、さらにはPRやマーケティングチームに働きかけてMacとEmployee Choiceの外部サポートを促進することなどが含まれます。詳細は、[4ページ](#)で作成したプロジェクトプランの手順を参照してください。IT、人事、コミュニケーションチームの担当リーダーを集めて、導入開始に向けた手順を一緒に調整し、実行します。アジェンダには、未対応のアクション項目、導入開始の正確なタイミング、主なマイルストーン、段階的な展開の最終プランを含めておきます。対象となる社員の条件や、社員が業務用のデバイスとしてMacを選択できるようになる時期と方法、更新サイクルやアップグレード頻度のプランなどを定めます。

Macを選択しやすくする

社員ができるだけ簡単にMacを申請できるプロセスを整えます。まず、社員に利用資格があるかどうかを判断するための明確な基準を

定義しましょう。

- Macを会社全体で導入しますか？一部のグループにのみ提供しますか？
- デバイスを一括導入しますか？段階的に導入しますか？
- 新しいデバイスやアップグレードによって最もメリットが得られる社員をどう判断しますか？
- 社員はどのような働き方を好みますか？どこで働いていますか？
- Macが提供する機能、ツール、テクノロジーを必要とするのはどのような役職や部署ですか？
- 社員がアップグレードの対象になる頻度はどれくらいですか？

Macに関するランディングページや、ユーザー自身が参照するためのポータルを作成し、Macの利用可否や発注方法のほか、新規デバイスを受領後にサポートやトレーニングを受けられる場所、プログラムの最新情報を入手できる場所を社員が確認できるようにします。選択可能なすべてのMacとWindowsパソコンのオプションが記載された社内のデバイス発注ページへのリンクも含めましょう。発注するタイミングで、社員はデバイスを比較して、自分や部門のニーズに最適なツールを選ぶことができます。

広く知らせる

人事やコミュニケーションチームに協力を募り、導入開始に関するお知らせ、ユーザートレーニングセッション、イベント、サポートなど、社員へのコミュニケーション戦略を策定します。人事チームは社員と直接やり取りする機会が多いので、導入プラン、継続的なサポート、実施可能なイベントを調整し、Macについて広く知らせてもらえるようにすることが重要です。

Mac社員向けコミュニケーションキットでは、幅広いコミュニケーション戦略や実施例のほか、すぐに使えるテンプレートを用意しています。これらのコンテンツについて、詳しくはAppleのアカウントチームにお問い合わせください。

社員にMacの導入を伝えるために様々なプラットフォームや手段の利用を検討しましょう。

- SlackやMicrosoft Viva Engageなど、社内向けのソーシャルおよびコラボレーションチャネルで導入に対する認知度を高めます
- 対象者、デバイスのオプション、Macの申請方法などについて、Eメールでわかりやすく案内します
- 月次や四半期ごとのニュースレターで、プログラムの詳細や最新情報を伝えます

- オンラインや対面でのイベントで社員の関心や意欲を高め、コミュニティを構築します
- 社内ブログやビデオを活用してより興味関心を喚起し、導入前後の需要を測定します

フィードバックを測定

Mac導入の前後に社員のフィードバックを収集する方法を用意しておきます。これにより、サポートしてくれる経営幹部への結果報告や改善領域の特定に必要な情報を得ることができます。

- **成果の指標を定義する。**成果を評価するための主要な評価指標を設定し、進捗を把握しましょう。これらの指標には、MacユーザーとMac以外のユーザーを対象とした、デバイスの耐用年数までのコスト、社員の満足度とパフォーマンスの向上、ハードウェアの故障と修理などに関する比較が考えられます。
- **ベンチマークを設定する。**比較の基準として、定めた指標に基づく過去数年分のデータを収集します。プログラムを開始する前に、社員の満足度と生産性の基準値を測定するためユーザーアンケートの実施を検討しましょう。
- **サポートへの問い合わせを追跡する。**ヘルプデスクのチケット量、サポートへの問い合わせ

件数、問い合わせの多いトピック、全体的なコストについてデータを収集しモニタリングを行うと、プログラムの拡大に伴う将来的な投資や成長をサポートするのに役立ちます。

- ・ **コメントをモニタリングする。** 社内向けのMacナレッジベースページの掲示板を確認し、社員の感情や課題、トラブルシューティングの問題についてさらに情報を収集します。

導入を拡大

業務を効率的に行うために最適なツールを提供すれば、社員の意欲はすぐに高まり、生産性の向上と組織の成功につながります。Macプログラムを管理し拡大する中で、それまでの運用から得た学びを活かし、社員の体験を継続的に改善しより良いものにしていきましょう。

社員の関心を維持し、会社全体にMacの導入を拡大するヒントをいくつかご紹介します。

- ・ **提供対象を拡大する。** 社内アンケートを実施し、情報を収集して、アプリとシステムの評価対象となる次の部門やグループを特定するのに役立てましょう。
- ・ **機能をモニタリングする。** 新しいmacOSのリリースごとに、Macでの利用を許可していたアプリとの互換性をテストします。Mac向けに最適化されている他社製アプリにも留意しましょう。
- ・ **イノベーションを推進する。** デベロッパと協力してレガシーシステムを刷新し、Macを使った新しい革新的なワークフローを構築します。

- ・ **認知を高める。** 社員や新入社員に最新情報を伝え、Macのプロモーションを継続します。社内のコラボレーション用アプリ、ソーシャルチャンネル、月次のニュースレターなどを使って、新しいリソースやヒント、Mac向けの承認済みアプリについて共有します。
- ・ **外部へのプロモーションを行う。** PRや社外向けのコミュニケーションチームに、プレスリリースやソーシャルキャンペーンなどを通じて、自社の基本理念の維持にMacが役立っていることをアピールしてもらうよう働きかけましょう。
- ・ **サポートを受ける。** サポートが必要な場合はいつでも、Appleチームまたは信頼できるチャンネルパートナーにお問い合わせください。

「Ciscoでは、社員をサポートし、意欲を高め、力を発揮して最高の仕事ができるようMac環境の再構築を進めています。世界各地で働くハイブリッド型の社員に強固なEmployee Choiceプログラムを提供するにあたり、Jamf Proのようなソリューションが役立っています」

Fletcher Previn氏(Cisco最高情報責任者)¹²

Windowsパソコンと比較したMacの生産性

9.8% 新規取引が増加	9.9% 取引の成立が加速
10.9% 商談が増加	11.5% 多くのコードを作成
12% サポートチケットが減少	36% ハードウェアの問題が減少

Employee Choiceが組織に与える影響を把握するため、CiscoのIT部門は、全世界の13万人以上の社員を対象に調査を実施しました。その結果、デバイスの選択肢が与えられた場合、Ciscoの社員の60パーセントがMacを選ぶことがわかりました。さらに、Macを使う社員をサポートするために必要なIT管理者の数は、Windows/パソコンを使う社員の場合と比較して3分の1少ないことも明らかになりました。社員のパフォーマンスや成果においては、Macユーザーの方がWindowsユーザーよりも高くなったというデータも示されています。営業部門では、Macユーザーの方が9.8パーセント多く取引を創出、10.9パーセント多く商談を実施、取引の成立が9.9パーセント早くなっています。また、Macを使うソフトウェアエンジニアは、約11.5パーセント多くコードを書き出しています。Mac@Ciscoプログラムを強化し、Employee Choiceプログラムを再構築したことで、社員の満足度を高めながらセキュリティと生産性が向上し続けています。

Mac ♥ Work

様々な業界で、多くの組織がAppleのテクノロジーがもたらすメリットを実感しています。社員は制作や共同作業をより効果的に行うためのツールを手に入れ、IT部門では柔軟性が向上し、負担が軽減しています。現在、すべてのMacにはシリコンシステムオンチップ（SoC）のAppleシリコンが搭載されており、パフォーマンス、AIと機械学習の能力、電力効率において業界をリードしています。史上最もパワフルなMacのラインナップから、社員一人ひとりのワークフローのニーズに合ったMacがきっと見つかるはずです。その圧倒的な価値、柔軟な管理フレームワーク、直感的に使えるデザインによって、Macを大規模に導入する大企業、スモールビジネス、医療機関、政府機関が世界中で増えています。みなさんの会社にMacを導入するためのプランを作成し、実行するお手伝いができることを楽しみにしています。自社のビジネスに最適なソリューションを見つけるために、ぜひAppleのエキスパートにお問い合わせください。



¹Ben Bajarin「Employee Experience and Modern IT」Creative Strategies, 公開日: 2022年1月26日 (creativestrategies.com/employee-experience-and-modern-it)。²Appleの委託により実施され2021年7月に公開されたForresterの調査「企業におけるMacのTotal Economic Impact™ (TEI): M1チップに関する更新」に回答した企業のデータにもとづきます (https://tools.totaleconomicimpact.com/go/apple/tei/?lang=ja-jp)。自社の経費および時間削減について把握するには、Forresterの調査で提供されているフレームワーク内で、独自の見積りを使用する必要があります。³この記述には、Interの組織でAppleのテクノロジーを使用するに観察された自己調査結果、傾向、事例報告が含まれています。Appleは報告された結果の分析に関与しておらず、分析の方法についても一切関知していません。⁴この記述には、Fordの組織でAppleのテクノロジーを使用するに観察された自己調査結果、傾向、事例報告が含まれています。Appleは報告された結果の分析に関与しておらず、分析の方法についても一切関知していません。⁵この記述には、Ritualsの組織でAppleのテクノロジーを使用するに観察された自己調査結果、傾向、事例報告が含まれています。Appleは報告された結果の分析に関与しておらず、分析の方法についても一切関知していません。⁶Apple M2, 8コアCPU, 10コアGPU, 8GB RAM, 256GB SSDを搭載した15インチMacBook Airシステム試作モデルを使用し、2023年4月および5月にAppleが実施したテスト結果によります。Apple TVアプリのムービー再生テストでは、ディスプレイの明るさを最低輝度から8回クリックした状態で、HD 1080pコンテンツを再生し、バッテリー駆動時間を測定しました。バッテリー駆動時間は使用条件と構成によって異なります。詳しくはapple.com/jp/batteriesをご覧ください。⁷この記述には、Wealthsimpleの組織でAppleのテクノロジーを使用するに観察された自己調査結果、傾向、事例報告が含まれています。Appleは報告された結果の分析に関与しておらず、分析の方法についても一切関知していません。⁸この記述には、Jaunt Motorsの組織でAppleのテクノロジーを使用するに観察された自己調査結果、傾向、事例報告が含まれています。Appleは報告された結果の分析に関与しておらず、分析の方法についても一切関知していません。⁹Kay M. Upham「Device Choice Empowers MITRE People to Innovate in their Own Way」News & Insights, MITRE, 公開日: 2021年4月23日 (www.mitre.org/news-insights/impact-story/device-choice-empowers-mitre-people-innovate-their-own-way)。¹⁰この記述には、SAPの組織でAppleのテクノロジーを使用するに観察された自己調査結果、傾向、事例報告が含まれています。Appleは報告された結果の分析に関与しておらず、分析の方法についても一切関知していません。¹¹この記述には、旺旺の組織でAppleのテクノロジーを使用するに観察された自己調査結果、傾向、事例報告が含まれています。Appleは報告された結果の分析に関与しておらず、分析の方法についても一切関知していません。¹²Hannah Hamilton「数字で見るエンタープライズにおけるMac: CIOの視点」Jamfブログ, Jamf, 公開日: 2023年9月20日 (www.jamf.com/ja/blog/mac-in-the-enterprise-employee-choice)。